

現整備計画策定時（R1年度）からの変化

- ・県・村による各種取組が一定の進捗
…牽牛子塚古墳整備、伝承芸能等の郷土学習、滞在施設誘致など
- ・世界遺産登録の取組が進捗



牽牛子塚古墳整備



伝承芸能の郷土学習



古民家を活用したホテル

今後の取組や課題解決において留意すべき事項

歴史展示・解説

- ・本物の遺跡整備とともに、AR・VRを必要に応じて活用
- ・「ストーリー性のある解説」について、単なる観光案内ではなく、地域の住民や生活と密着したものであるべき



遺跡の整備（飛鳥京跡苑池）



少子高齢化・人口減少、農地・樹林地等の担い手不足

- ・農林業については、将来的な方向性を明確化するにあたり行政と地域住民が十分な議論を重ねることが重要
- ・農地や里山管理について、実現可能な管理・利用の取組を推進していくべき
- ・移住について、希望者のニーズを丁寧に把握して施策をデザインすべき



棚田景観（稲刈り地区）



棚田・山裾部における耕作放棄地の拡大

観光の高付加価値化・滞在型観光の推進

- ・インバウンド対応のほか、今後オーバーツーリズムが起こらないよう、客観的なデータに基づき、交通や施設利用、プライシング等について対策を講じるべき
- ・眺望ポイント（視点場）等の充実が重要

交付金事業

- ・地域が暮らしと一体的に守られる点で効果
- ・基金の運用の改善の上で、当面継続すべき

今後に向けて考慮すべき視点・議論の方向性

- ・明日香の歴史的風土が地形・自然を背景に形成されてきたことは改めて認識すべき
- ・観光資源や歴史文化資源（図）だけでなく、農地や樹林地の景観（地）と一体として地域全体の保全を改めて認識すべき
- ・地域住民の暮らしの中に遺跡があることが明日香の魅力であることを認識すべき
- ・保存されてきた景観とそれを成り立たせてきた生業との間に乖離が生じており、それをどう埋めるか
- ・今後の議論にあたっては、歴史的風土をどう踏まえるか、「明日香らしさ」についてどう認識するかを検討していくべき